

# こおろぎ

発行日 2003年3月1日 No.120  
発行元 株式会社  
オリジン・コーポレーション  
代表取締役：杉井保之  
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町777-1  
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187  
E-mail origin@ck.tnc.ne.jp

## 主張する前に

最近では、企業はもちろん学校の授業でもディベートを取り入れ、自分の意見を論理的に主張するトレーニングを行っているところが増えているようですが、私はそうした流れに疑問を感じています。

もちろん自分の意見を論理的に展開できることは悪いことではありません。それどころか自分の意見を論理的に主張して、相手を論破できたら気持ちの良いことだと思いますが、柔道でも投げ技の前に受身を身につけるように、自分の意見を言うことより先に身につけておかなければいけないのは、人の話を聴くことであり、謝り方だと思ふのです。

昔の日本人は、自分の意見を言葉にして主張することが苦手だったようですが、今では論理的ではないにしろ、多くの人十分過ぎるほど自分の意見を主張出来るようになったと思います。しかし、人生はディベートのように相手の意見を論破したところで決して良くなどならないのです。

適切な例ではありませんが、何十年もかけて積み上げた信頼を、その行為より、その対処の仕方（謝罪の仕方）で完全に失った超有名ブランドがあったことを皆さんも覚えていると思います。多くの方は、ミスをしたことにより、そのときの対処の仕方、誠意のなさに対して本気で腹を立てるものなのです。

最近、桶川女子大生殺害事件に対して判決が出されましたが、判決が妥当だとしても、警察や県はその主張の仕方や対処の仕方のために、裁判に勝って、信頼で負けることになりかねないと感じています。

もちろんミスを犯さないようにしなくてはなりませんし、誰も自分の主張を通したいものですが、その人、その企業が最も問われるのは、論理的に意見を主張出来るかどうかではなく、丁寧に相手の意見を聴くことや、誠意をもった謝罪が出来るかどうかにあると思ふのです。

とかく勝つこと、成長することばかりに目が行きがちな今日の日本において、謝罪のあり方を説いた本が発売されました。

私も読んでみて、とても良い本だと思いましたので、皆さんにご紹介します。良かったら読んでみて下さい。

「一分間謝罪法」扶桑社

## ☆☆ お便りコーナー ☆☆

お葉書ありがとうございます。私はこれまで数年間、毎日のがきを書いてきましたが、「こおろぎ」を読んで、相手の幸せを願って書くというより、書くことが目的となったり、自分が偉くなるために書いていたことに気がつきました。しかし、杉井さんもそうだったことがあり、書いたことは大事な事実だと言っていたら救われた気がします。これからは私も皆さんの幸せを祈って書いていきたいと思ふます。ありがとうございます。

「こおろぎ」ありがとうございます。企業であれば社風、家庭であれば家風というように風土は実に大切ですね。十七年前の当社は、飲んだビール瓶を平気で構内で投げて割るような社員がいましたが、今では皆で隣近所のお掃除まで出来るようになりました。時は流れるものでなく積み重ねていくことだと、今、実感しております。

## 二つの幸せ

皆さんは、「幸せ」に二つの種類があるのをご存知でしょうか？新しい服や車を買う。部屋の模様替えをする。海外旅行に行く。英語が話せるようになる。自己のベストを更新する。

こうしたものは、これまで持っていないものが手に入る幸せ、「外にある幸せ」です。

私もそうですが、一般的に「幸せ」といったとき話されているのは、この「外にある幸せ（手に入れる幸せ）」のことです。

時々、一生懸命に意見を主張し、人と競争している人を見かけますが、このような謝ることの苦手な人の心には、「負けたら手に入れたものを奪われる」という思い込みがあるのかもしれない。

確かに、新しいものを手に入れることは刺激的で嬉しいことです。果たしてこれからの日本でこの幸せが手に入るでしょうか？高度成長の時代なら手に入れやすかったこの幸せも、現在の低成長（マイナス成長？）の社会では手に入れにくくなると思われます。

そこで大事になるのが、もう一つの幸せ「内にある幸せ（今ある幸せ）」です。

同じ景色を見ても人によってその感動には差がありますし、同じ会社に勤めても、人によって不満の量には差があります。このように同じ環境におかれても、人によって幸せの度合いには大きな差があるのです。

不景気とは言え、今の日本は地球の歴史上、最も豊かな国です。多くの方が海外旅行をし、冷暖房のある家に住み、働いていない子どもまでが携帯電話を持っています。他の国や昔と比べて確実に豊かになったのに、多くの子どもが不登校になり、心療内科には人があふれています。まだ何か足りないのでしょうか？

もし足りないものがあるとしたら、それは「手に入れる幸せ」ではなく、「今ある幸せを感じる力」だと私は思うのです。

結婚している人の中には、結婚するまでは相手が輝いて見えたのに、結婚したら欠点ばかりが見えてきたという経験をされた方が多いと思いますが（笑）、手に入れてしまったら当たり前になり、足りないところばかりが見えてくるとしたらとても悲しいことですね。きっと一生幸せを手に入れることは出来ないでしょう。

皆さんの中にも新しいことを始めたとき、それまで全く気づかなかった広告に目が留まった経験のある方がいると思います。人は、目に映っていても、自分が意識しているものしか見えないのです。よく不満を見つける人は、知らず知らずのうちに不快なことを探しているのかもしれない。

私は若い頃、歳をとると身体が言うことを効かなくなり、外にある幸せを手に入れられる力も弱くなるので「イヤだなあ」と思っていました。しかし、実際に腰が痛くなったり、物覚えが悪くなってくると、遅くてもまだ走れる足や、やっと覚えた単語が一層いとおしく思えてきて、これまで以上に大切にしたいくなります。きっと以前の私なら、早く走れない足や覚えの悪い頭はイヤで、捨ててしまいたくなったことでしょう。

こうしたことは40歳を過ぎ、人生を折り返した今だから思うことかもしれませんが、もし老いることや、病に意味があるとしたら、もう一つの幸せ（今ある幸せ）を味わい、その存在を伝えるためにあると思えるのです。

これまでの日本は、「外にある幸せ」ばかりに意識を向けてきた気がしますが、今ある幸せを認め、今あるものを大切に磨いていくことが、実は結果として外と内、両方の幸せを増やしていく道だと私は思うのです。

最近、ありのままの自分や、他の人を嫌う人達が増えているようですが、どんな人も決して完全ではないのですから、出来ない自分を嫌ったり、あきらめたりせず、支えてくれている人の存在を認め、出来ることを大切にしていってほしいと私は願います。